

風立ちぬ

風の街の中学校の窓から

庄内町立立川中学校
学校便り
2017.7.7②

文責：校長 佐藤 真哉

震災復興を願う合唱！ 「群青」を心を込めて歌う



7月5日、全校集会「立中タイム」の中で阿部生徒会長から全校合唱について説明がありました。翌日の昼休みに音楽室で五十嵐久先生から合唱について説明していただきました。その時、「群青」という曲を全校生徒から聴いてもらいました。

作詞（福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生：構成小田美樹）
作曲（小田美樹）

福島県南相馬市立小高中学校 小田美樹教諭が平成25年7月18日に書いた文章「群青の子ら」を紹介します。

小高中学校のある福島県南相馬市小高区は、福島県の東端、浜通りと呼ばれる地域にあります。福島第一原子力発電所の北、半径20km圏内に全域が入り、住民全員が今なお避難生活を送っています。

平成24年度の卒業生は東日本大震災当時の1年生でした。106名いた学年の生徒のうち2名が震災時の津波の犠牲となり、97名がその後の原発事故による避難のため、北は北海道、南は長崎まで散り散りとなりました。4月22日にやっと市内の中学校を間借りして学校を再開した時には、学年の生徒はたったの7名となっていました。

ある日、誰がどこにいるのか確かめながら仲間の顔写真を大きな日本地図に貼り付けていると、生徒達は口々に「遠いね」「どうやったら行けるの？」「でも、この地図の上の空はつながってるね」などの気持ちを述べました。その日から、「群青」の詩の核となる生徒達の日々のつぶやきを綴る毎日が始まりました。

小高区は「紅梅の里」と呼ばれており、小高中学校はその紅梅の色をイメージした「エンジ色」がスクールカラーとなっています。しかし校歌に「浪群青に躍るとき」という一節があることから、文化祭は「群青祭」という名称であり、野球チームも「小高群青クラブ」と名付けられています。「群青」とは本校に関わる誰もが自分達の色と感じている色の名前であり、私達の絆そのものです。

「群青の子ら」は「群青の町」で再び集う日を思い描き今日もどこかで同じ空を見上げて頑張っているはず。そして、そう思い続けることが私がここで今日生きる力ともなっています。いつかあの美しい小高で「群青の子ら」と再会できる日を信じています。

みなさん、小田先生の思いを感じただけでしょうか？「群青」について聞いたり調べたり友達と話し合うこともいいでしょう。歌いながら自分の心で感じ歌い込んでください。そしてみんなで心を込めて歌いましょう！

「^{ぐん}群^{じょう}青」

作詞 福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生・構成小田美樹
作曲 小田美樹

ああ あの町で生まれて
君と出会い
たくさんの思い抱いて
一緒に時間を過ごしたね
今 旅立つ日
見える景色は違っても
遠い場所で 君も同じ空
きっと見上げてるはず

「またね」と 手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火
いつでも君がいたね
あたりまえが 幸せと知った
自転車をこいで 君と行った海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が
僕らの中を過ぎて
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声
響け 遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な すべてに届け
涙のあとにも 見上げた夜空に
希望が光ってるよ
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう
あの町で会おう
僕らの約束は
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

「田中 南」に(7/6入籍)なりました！ おめでとう！末永くお幸せに！！



職員も祝福(観(狂))



1年でもサプライズ結婚おめでとう会

